

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

薬学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
学部	④	④	③	④	④	④	④		④	④	④	⑤
薬学プログラム								④				
薬科学プログラム								④				

自己点検・評価単位	分析 項目 6-1-1	分析 項目 6-2-1	分析 項目 6-3-1	分析 項目 6-3-2	分析 項目 6-3-3	分析 項目 6-4-1	分析 項目 6-4-2	分析 項目 6-4-3	分析 項目 6-5-1	分析 項目 6-6-1	分析 項目 6-6-2	分析 項目 6-6-3
学部		④	④		④	④	④	④	④			④
薬学プログラム	④			④						④	④	
薬科学プログラム	④			④						④	④	

自己点検・評価単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
学部	③	④	④	④	④	③
薬学プログラム						
薬科学プログラム						

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

2. 評価結果に対する総評

薬学部における評価はほとんどが「④適合する」以上であり学士課程教育は適切に行われている。近年、大学を取り巻く環境は厳しく、それに伴う業務の多様化や増大がやむを得ない状況にある。このような現状にあっても学士課程の質を維持できているのは、教員および事務員の献身的な努力によるものである。一方、薬学教育の質保証を目的として、2018年度に一般社団法人薬学教育評価機構による薬学教育第三者評価を受審し、2019年3月に機構が定める評価基準に適合していると認定された（認定期間 2019年4月1日～2027年3月31日、<https://www.hiroshima-u.ac.jp/pharm/about/disclosure/jabpe>）。他大学と比して改善すべきとされた項目数は少なく、高い評価を受けたと考えているが、この評価に満足することなく、学士課程教育の改善につなげている。

一方で、2-1-2, 6-6-4, 8-1-2 については「③やや適合する」とした。いずれの分析項目も卒業生の就職先でのアンケートに起因するものである。このアンケートは毎年行うものではなく本年度は実施していないため、このような評価とした。薬学部としてはこのアンケート調査は定期的に行う必要があることは理解しており、次のアンケート調査の準備を進めるという観点からこのような評価とした。

卒業生の就職状況や薬剤師国家試験の合格率等からも十分な教育効果を上げていると考えているが、教員数が必ずしも十分でなく、負担感は大きく限界に近付きつつあるが、教員の絶対数が少ない中でも適切な活動が行われている（領域1）。プログラムや教員の質については、今年度は実施していないが、卒業生を採用した企業へのアンケート調査の結果を取り入れ、その内容をふまえてプログラム担当教員会へフィードバックし、必要に応じてFD研修会を開くことで確保している（領域2）。情報公開も積極的に行っている（領域3）。領域4に関して、小さな学部の利点を最大限生かし、学生に寄り添ったきめ細やかな指導を行っている。学生の受入れ（留学生を含む）については、入学生の学修状況を評価して適切に改善できる体制を整えている（領域5, 7）。卒業生の就職状況や薬剤師国家試験の合格率等からも十分な教育効果を上げていると判断できる（領域6）。

リカレント教育についても数は多くないが、魅力的な履修証明プログラムが準備されている。今後は履修者を増やすことも視野に入れさらなる改善を進める（領域8）。

薬学領域では薬学教育モデル・コアカリキュラムが設定され、それに準じた教育が義務化されており、本学薬学部における学士課程教育の適切性はこのモデル・コアカリキュラム、第三者評価、本学の自己点検評価と何重にも保障されている。一方で、第三者評価だけではない外部評価も取り入れるべきであると考えられる。すなわち、令和3年度に実施していない薬学部卒業生を採用した企業を対象としたアンケート調査や各プログラム最終学年の学生に対するプログラム全体の評価を得ることがさらなる改善には必要である。これらについて令和4年度に準備を進め、令和5年度での実施を目指す。